



穴が辻古墳と眼下に広がる平野（北東上空から）

県内最古級の横穴式石室

美作市^{あな さこ}穴が辻古墳

穴が辻古墳は、兵庫・鳥取両県と接する県境の美作市今岡（旧大原町）に所在しています。古墳は、水田が一面に広がる平野と、眼下を南北に貫流する吉野川を一望できる丘陵上に位置します。当センターでは中国横断自動車道姫路鳥取線の建設に伴い、平成17年4月、この古墳に発掘調査のメスを入れました。

古墳は直径18mの円墳です。東から西に下がる斜面に築かれており、高さは西側が4m、東側が1.5mを測りました。古墳の東側端部には溝が、墳丘の東西斜面には石列がそれぞれ巡ります。石列は古墳の盛り土の中に埋まって並んでおり、古墳完成後には見ることができない状態でした。そのことから石列は古墳を飾るというよりも、墳丘や埋葬施設を築く際の基礎であろうと考えています。



銀の装飾を施した大刀



副葬品の出土状況

埋葬施設は横穴式石室です。遺体を安置する部屋—^{げんしつ}玄室は、長さ3.7m・最大幅2.4mを測りました。玄室の壁面は石材の小口面を内側に向けた小口積みで、側壁は内側に徐々にせり出すように積み持ち送り技法を採用しています。石室内に遺体を搬入する通路—^{せんどう}羨道は、石室の西壁に沿うように設置されていました。奥から見ると、右端に羨道が通り、左側には壁がそびえる構造で、^{かなそで}左片袖式といえます。石室内には砂利を敷いており、その上に遺体を安置して、副葬品を置いたと思われます。

副葬品には、須恵器（杯蓋・杯身、^{たかつき}高杯、壺、^{なげけい}短頸壺）、鉄製品（刀、矢じり）、玉製品があります。特筆すべきは、柄に装飾を施した鉄刀です。装飾は銀の薄板を柄頭にはめ、さらに柄の部分に銀線を巻いたもので、^{ふくそうひん}銀装円頭大刀と呼ばれる部類に入ります。銀線は幅5mm、厚さ1mmで、線刻も認められています。同様の遺物は、県内では岡山市西山3号墳で線刻入りの銀線の破片が出土しています。なお、出土した須恵器から時期は6世紀中葉頃と考えられ、県内でも古いタイプの横穴式石室と考えられます。

7月23日（土）に現地説明会を美作市教育委員会と共同で開催したところ、270名の方にご参加いただき、大盛況となりました。猛暑の中、参加して下さった皆様に、厚くお礼申し上げます。

（上村 武）

発掘MAP

平成17年度の発掘調査は、図に示した9か所で行っています。

本号では、その中の4遺跡の最新情報を紹介します。（青字が掲載遺跡）



- ① 総社市窪木遺跡
- ② 岡山市津島遺跡
- ③ 岡山市国長遺跡ほか
- ④ 瀬戸町鍛冶屋D遺跡
- ⑤ 瀬戸町吉岡廃寺関連遺跡
- ⑥ 勝央町大河内遺跡
- ⑦ 美作市中町B遺跡
- ⑧ 美作市下町陣屋跡
- ⑨ 美作市穴が辻古墳ほか

古墳時代の集合住宅

総社市^{くほき}窪木遺跡



調査区の全景

窪木遺跡は総社平野の東部に位置します。昨年から行われている調査では、古墳時代後期（約1,400年前）の竪穴住居が多数見つかりました。これらは一辺が4～5mの方形で、北または西側の壁にカマドを造り付けたものがほとんどです。また多少の時期差はありますが、大規模な掘立柱建物も建築されており、古墳時代後期の大集落だったといえるでしょう。20軒近くの住居が立ち並ぶようすは、まさに現代における集合住宅のような景観であり、家々のカマドから立ちのぼる煙に、当時の人々の暮らしぶりが見えてくるようです。

(妹尾昌子)



住居内に造り付けられたカマド



竪穴住居の調査風景

川岸に営まれた集落

おおこうち
勝央町大河内遺跡

大河内遺跡は勝田郡勝央町を東西に横切る滝川の左岸に位置します。発掘調査によって、主に弥生時代・古墳時代・中世と、断続的に営まれた集落遺跡であることが分かりました。

弥生時代の大河内遺跡は前期末から後期前葉(約2,100~1,900年前)にわたり、居住域や墓域として利用され、多数の竪穴住居や土壙墓(素掘りの墓)が見つかりました。

竪穴住居は同心円状に拡張を繰り返したものが多く、細かく数えると全部で20軒以上が確認できました。拡張の回数は最多のもので5回におよびます。また、火災で焼け落ちた住居からは、保存状態のよい土器が多量に出土しました。一方、土壙墓群は住居の近くに掘られ、多くは中期末に属し、幼児用と思われる小形のものが



弥生時代の竪穴住居群



焼け落ちた竪穴住居の調査



鎌倉時代の建物群

目立ちます。とりわけ、長さ3m強を測る前期末~中期初頭の土壙墓は、岡山県北部ではほとんど例がなく、貴重な発見です。

中世の遺構は、鎌倉時代初め頃(約800年前)のものが中心です。多数の柱穴のうち、主軸を南北に示す掘立柱建物が3棟あり、うち1棟は床面積約106㎡と大規模なものです。また建物群の外側には、敷地を区画するような溝も巡らされていました。こうした特徴から、これらは当時の有力者の居館跡の可能性もあり、当時この地域に置かれていた「勝間田荘」という荘園との関連も注目されます。

なお、調査期間中の8月20日(土)には現地説明会を開催しました。当日は約130名もの方々が来場され、複雑に重なる住居跡や、展示された遺物に熱心に見入っておられました。

(岡本泰典)

古代末～中世の建物群と現地説明会

こくちょう
岡山市国長遺跡



掘立柱建物群の説明



出土遺物の展示コーナー

都市計画道路竹口升口線街路改築に伴う発掘調査では、国長遺跡の現地説明会を4月23日(土)に開催し、多くの方々にご参加いただきました。

国長遺跡は平成16年12月から調査に入り、上層に近世の耕作痕、下層には平安時代末から鎌倉時代の掘立柱建物9棟・集石墓2基と土器溜まりが見つかっています。

現地説明会当日は、掘立柱建物・墓などの遺構と共に、そこから出土した土器を並べて説明したので、より親近感が増したのではないかと思います。

また、これまでの発掘調査で出土した、中島城跡・宮南遺跡・天神河原遺跡の遺物も同時に公開展示できる機会となりました。(氏平昭則)



「ならべてみよう！」特設コーナー



出土した遺物も並べて遺構の説明



川原石で覆われた墓

センターの活動から

考古学入門講座 この足下に歴史がある

昨年度から新たに開講した考古学入門講座は、昨年度2回、今年度3回の計5回開催し、延べ200人を超える参加者がありました。この入門講座は、最新の発掘調査の成果を用いた講義と実習を組み合わせ、幅広い年代の人々が参加できることに特徴があります。今年度は、県情報政策課の協力を得て、ホームページから直接応募できるようになったことから、参加者も県内の枠を超え、香川県や大阪府など県外の参加者がありました。

これまで「土器の見方」「土器製塩のはなし」などの講義や「分銅形土製品の製作」「土器の復元作業」「火起こし体験・土器を用いた塩作り」などの実習を行ってきました。今年度の第2回目は、「吉備路風土記の丘」に会場を移し、「古墳の見方」をテーマに、岡山県立吉備路郷土館と古墳の見学も行いました。

今年度4回目の講座は1月を予定しています。今後も様々な内容の講座を開催する予定です。古代の人々の暮らしを学びたい方、体験してみたい方、ご応募ください。



「土器の見方」講義風景



大地からの便り2005 — 県内の発掘調査報告会 —



第18回を数える発掘調査報告会は、今年も「大地からの便り」と題して、8月27日（土）に岡山県立美術館で開催しました。

この報告会は、県内の市町村教育委員会の協力を得て、毎年この時期に、発掘調査中から話題を提供した遺跡について、映像をまじえた報告のほか、記録写真や出土品の展示を行っています。

当日は150名を超える参加者があり、会場は夏の暑さに負けないほどの熱気に包まれていました。参加者の皆さんは熱心に出土品の観察を行ったり、発表中にメモをとったりしておられました。なお、百間川遺跡群の出土品については、9月11日（日）まで期間を延長して当センターで展示しましたが、一部の遺物は常時展示しています。

<スライド報告>

第1部 最近の発掘調査から

- ①彦崎貝塚
(岡山市埋蔵文化財センター)
- ②両宮山古墳 (赤磐市教育委員会)
- ③中町B遺跡 (県文化財センター)

第2部 百間川遺跡群の調査から

(県文化財センター)



今年も会場は
多くの参加者で
にぎわいました



お知らせ

HP (ホームページ) から リアルタイムの情報配信中!

当センターではホームページを公開しています。昨年5月にリニューアルしてから、今年の8月末現在で2万件を超えるアクセスがあります。このホームページでは、当センターで行っている発掘調査やこれから行う考古学入門講座などのイベント情報をいち早く掲載していますので、是非ご覧ください。



発掘調査報告書の刊行

昨年度新たに9冊の報告書を刊行しました。県内初の埴輪窯が発見され、大きな話題を呼んだ土井遺跡の報告書(191)のほか、足かけ10年に及んだ発掘調査成果の締めくくりとなる苦田ダム関連遺跡(192~194)の報告書など、遺跡の内容も多岐にわたっています。

これらの報告書は、県立図書館や岡山市立中央図書館、あるいは県下各市町村教育委員会などに配布しており、学術研究や埋蔵文化財の普及・啓発のために活用されています。詳細については当センターへお問い合わせください。

<最近刊行された報告書> (数字は報告書番号)

- 186 川入遺跡
- 187 塩納成遺跡
- 188 伊福定国前遺跡2
- 189 長縄手遺跡
- 190 津島遺跡6
- 191 土井遺跡、谷の前遺跡、慶雲寺跡
- 192 久田堀ノ内遺跡
- 193 杉正宗遺跡、箱E遺跡、かなぼれB遺跡、丸ヶ丸遺跡、勝の段遺跡、下黒木遺跡、久山神社古墳、城峪城北散布地
- 194 夏栗遺跡

展示室のご案内

昨年度から年末・年始を除く休日も展示室を公開しています。展示室では常設展示のほかに、企画展示を行っており、主に「最近刊行した発掘調査報告書から」と題して、発掘調査報告書が刊行された遺跡の中から特に注目されるものを取り上げて、記録写真や出土品の展示を行っています。

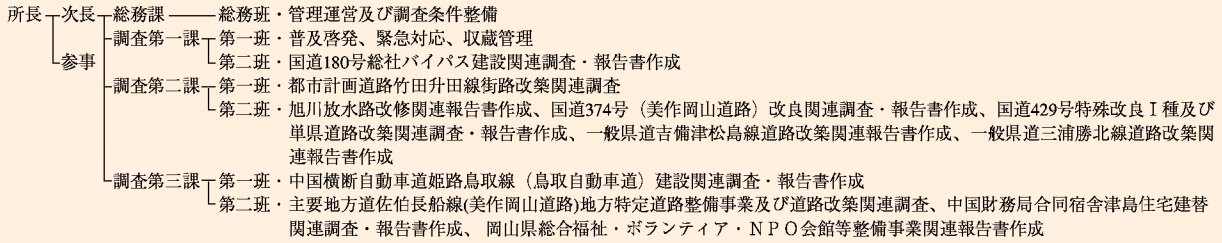


2~3か月ごとに展示替えを行い、報告書に掲載された遺物を身近で見ただけのよう工夫していますので、是非お立ち寄りください。

(河合 忍)

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員（平成17年度）

<組織>



<職員>

所長 松本 和男
 次長 内田 猛
 参事 平松 郁男・高畑 知功

総務課

総務課長事務取扱 内田 猛
 総務班
 総括副参事（総務班長） 若林 一憲
 主任 小川 紀久
 主事 堤 弘至・絹輪 桂子
 澤 将人・樋口 未来
 荒木 正行

調査第一課

課長 岡田 博
 第一班
 総括副参事（第一班長） 光永 真一
 主査 正木 茂樹・柴田 英樹
 主任 小林 利晴（文化財課本務）
 主事 河合 忍
 臨時職員 竹下 鎌史
 第二班
 総括副参事（第二班長） 江見 正己
 副参事 下澤 公明・尾崎 光徳
 主査 渡邊 恵里子
 主事 松尾 佳子・水田 貴士・妹尾 昌子

調査第二課

課長 島崎 東
 第一班
 総括副参事（第一班長） 内藤 善史
 副参事 宇垣 匡雅（赤磐市へ派遣）
 主査 氏平 昭則
 主任 塩見 真康（赤磐市から派遣）
 物部 茂樹
 主事 上西 高登・飯田 浩光
 第二班
 総括副参事（第二班長） 岡本 寛久
 副参事 二宮 治夫
 主査 高田恭一郎
 主任 岡本 泰典・小嶋 善邦
 主事 和田 剛・稲谷 知子

調査第三課

課長 中野 雅美
 第一班
 総括副参事（第一班長） 福田 正継
 副参事 浅倉 秀昭
 主査 弘田 和司
 主事 重根 弘和・上梶 武・石田 爲成
 第二班
 総括副参事（第二班長） 山磨 康平
 副参事 井上 弘
 主査 大橋 雅也・小松原基弘・澤山 孝之
 主任 尾上 元規
 主事 團 奈歩・米田 克彦



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市西花尻1325-3
 TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142
<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

- 交通案内 ・JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分
・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- 業務時間 AM 8:30～PM 5:15
- 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始
- 展示室の開館 AM 9:00～PM 5:00
年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。
ただし、臨時に休館することがあります。

